1　研究の概要

(1)　研究主題

自分の考えや気持ちを英語で伝え合おうとする児童の育成
―クラスルームイングリッシュの活用を通して―

(2)　主題設定の趣旨

平成 29 年３月、新学習指導要領が告示され、小学校外国語活動は抜本的改革が行われようとしています。高学年の目標は、これまでの「コミュニケーション能力の素地を養う」から「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指す」となり、外国語活動ではなく、教科としての外国語科となりました。また、今までの「聞くこと」「話すこと」に、「読むこと」「書くこと」の言語活動が加わり、さらに「話すこと」は「話すこと［やり取り］」と「話すこと［発表］」に分かれた５つの領域が設定され、授業時数は、現在の年間 35 単位時間から 70 単位時間実施となりました。

平成 29 年３月に国立教育研究所から出された「小学校英語教育に関する調査研究実施状況調査」において、児童の 70.9%が「英語が好き、どちらかと言えば好き」と回答している一方で、「英語で自分のことを言うことが楽しい」と答えた児童は 49.2%と半数を切っています。このことから、英語そのものには期待感や憧れを抱いていますが、外国語活動の授業中の「聞くこと」「話すこと」においては困難さを感じている児童が半数以上いることがうかがえます。これと関連して「広島県海田町グローバル人材育成事業・海田町授業力向上研究要項」においては、授業中の英語使用量が十分でなく、音声や基本的な表現に慣れ親しませていないため、英語で話すことに自信が持てず、話す楽しさにつながっていないのではないかという課題が挙げられています。また、文部科学省が平成 26 年度に実施した「小学校外国語活動実施状況調査」を見ると、67.3%の小学校教員が「英語が苦手である」と回答し、「外国語活動を自信をもって指導している」と答えたのは 34.6%にとどまりました。以上の結果からも、学校現場においては、中学年からの外国語活動と、高学年における教科としての外国語科の指導に不安を感じている教師が多いと考えられます。

そこで、本研究では、「話すこと［やり取り］」に重点を置き、基本的な英語表現を用いて自分の考えや気持ちを英語で伝え合おうとする児童を育成するために、音声で英語の語彙や基本的な表現に十分に慣れ親しませるクラスルームイングリッシュの指導の在り方について探っていきます。指導に当たっては、まずは、教師のクラスルームイングリッシュに焦点を当て、英語で指示や依頼を行い、それらに応じる児童の変容を探ります。毎時間の授業に必要な表現を選び、ゆっくりはっきりと話しをしていきます。それらを使う際に、場面と言語を一致させ、繰り返し積極的に使うことで、英語を使おうとする人のモデルとなると考えられます。また、実際にコミュニケーションを図る場面を設定し、児童自身が基本的な英語表現を用いて指示、依頼をしたり、質問をしたりし、それらに応じることを繰り返すことで、英語で自分の気持ちや考えを伝え合おうとする児童の育成を図りたいと考え、本主題を設定しました。

(3)　研究の目標

小学校外国語科において、自分の考えや気持ちを英語で伝え合おうとする児童を育成するために、クラスルームイングリッシュを活用した指導の在り方を探る。

(4)　研究の仮説

小学校高学年の外国語科の授業において、クラスルームイングリッシュを使う場面を多く設定し児童に十分な英語表現を慣れ親しませていけば、類推しながら聞いたり話したりすることができるようになり、自分の考えや気持ちを英語で伝え合おうとする児童が育つであろう。

(5)　研究方法

ア　クラスルームイングリッシュに関する理論研究と先行研究の調査
イ　小学校教員及び小学６年生の児童を対象にした質問紙調査による実態把握
ウ　クラスルームイングリッシュを活用した授業実践

(6)　研究内容

ア　文献調査や先行研究調査を通し、クラスルームイングリッシュの活用について情報収集や理論研究を行います。
イ　小学校教員及び小学６年生の児童に対して、外国語に関する質問紙調査を実施し、実態を把握します。
ウ　小学６年生の児童を対象に検証授業を行い、クラスルームイングリッシュの効果的な活用を検証し、その指導の有効性を検証します。